

呑川の植物(9月～10月)レポート

2020.10.17

秋は野草・雑草の花が多く見られ、なかには鮮やかな彩のものや地味な(イネ科)花もあります。今回は馴染みのある野草・花木等 10 種を取り上げました。



「コスモス」

秋に相応しい花と云えばコスモスが思い出されます。昭和記念公園のコスモスの群生は有名ですが呑川でも「夫婦橋公園」で毎年見られます。薄紅色のコスモスが良く知られていますが白や黄色、チョコレートコスモスも綺麗です。メキシコが原産の一年草、日本には明治時代に観賞用としてやってきました。別名は「秋桜」でやせた土地でも良く育ち、栽培が簡単、草丈は 1.5m にもなることがあります。舌状花は 8 個、葉は魚の骨のように枝分かれして細かいところが特徴です。花言葉「乙女の心」キク科。

「ヒガンバナ」

お彼岸の頃に急に茎を伸ばして葉のない真っ赤な花を咲かせます。古く中国から渡来した植物でマンジュシャゲ(曼珠沙華)とも呼ばれています。白い花の「シロバナヒガンバナ」もあります。呑川沿いでは上流の「桑の木児童公園」や「久が原二丁目広場」で見られました。花は 5～7 輪になってリボン状の花弁が反って開き大輪に見える。花が終わると水仙のような細長い葉がでて冬から春先まで茂り、その間に球根(鱗茎)に栄養分を蓄えます。花は葉を見ず、葉は花を見ずとなります。球根は有毒(リコリン有成分)で、田圃の畦を守るために植えられたこともある。

多年草。花言葉「情熱」「諦め」



「オシロイバナ」

熱帯アメリカ原産、草丈 1m にもなり盛んに枝分かれして生い茂り沢山の花をつけます。花色は紅紫、白、黄色など。

花弁に見えるのは萼、花の直径3cm、細い筒先はラッパ状に広がる。花が咲くのは 7～10 月で時間帯は午後 3 時から翌朝方まで、夜行性です。英名 four-o' clock(4 時)と呼ばれる。花は一晩で枯れてしまいますが次から次と新しい花が咲くので秋の夜長を楽しめます。花言葉は「臆病」「内気」とあります。控えめな花らしい。花の後、黒い実の中に白い粉が入っているのでオシロイ

バナと呼ばれています。呑川では靈山橋から堤方橋の間で良く見られます。多年草。



「ルコウソウ」

漢字では「縷香草」、縷とは細い糸のこと。特徴的な葉の形(羽状に裂けた葉)と鮮やかな紅色の花が咲くことから名前が付けられたと云われる。花は紅色の他に白色もある。呑川ではルコウソウの仲間で葉がモミジ似の「モミジバルコウソウ」が最近は多く見られます。熱帯アメリカ原産のつる性植物で一年草、花の時期が長く昔から観賞用として植えられた。丈夫で良く育ち野生化している。花は直径 2cm、上から見ると星形、横から見るとラッパ形です。雪の橋、八幡橋(仲池上)の付近に多く見られる。花言葉は「織細な愛」「元気」。ヒルガオ科



「マルバルコウ」

熱帯アメリカ原産のつる性植物、一年草。江戸時代に観賞用として持ち込まれた。空地や道端に野生化しています。葉はハート形、丸い葉のルコウソウという意味。7月から10月にかけて中心が黄色の鮮やかな紅色の花を沢山開きます。花は五角形をしている。妙見橋や JR 鉄橋付近で多く見られます。花言葉は「私は忙しい」とありました。ヒルガオ科



「ツルドクダミ」

中国原産のつる性植物、別名カシュウ(可首鳥)。江戸時代薬用として持ち込まれたのが野生化した。呑川では妙見寺～浄国橋の左岸の間に見られる。繁殖力が強く他の植物を覆ってしまう、根っこは昔から不老長寿の妙薬として知られている。ドクダミ(ドクダミ科)の仲間ではないが、葉が似ていてつるを伸ばし広がるのでこの名がついたと云われる。花は7～11月、多年草、タデ科。



「セイタカアワダチソウ」

北アメリカ原産の多年草。1950 年代から急速に広まりました。高さは 3m 近くにまでなって地下茎を伸ばし、他の植物の発芽の邪魔をする成分を出して、空き地を独り占めにする。綿毛をつけた実を風で遠くへ飛ばし成育エリアをひろげます。花には蜜がありいろいろな虫が集まる。花の直径は 6mm、実が熟すと実の綿毛でもこもこと泡立つように見える。黄色い花

は草木染に利用され。上堰橋付近で見られました。花粉症の対象ではない。

「ランタナ」

南米原産、和名「ヒチヘンゲ」、綺麗で可愛らしい色の花を咲かせる丈夫な植物。常緑性熱帯植物、日本では冬季枯れるため一年草として扱われる。草丈 20~30cm、種類は 150 種あり、似た種として「コバノランタナ」(ほふくタイプ)がある。開花は 5~11 月、花色は白、ピンク、オレンジ、黄色などあり徐々に変化していくのが特徴。黒っぽい種は毒(ランタナン)がある。こぼれた種でも増えてしまう、繁殖力が旺盛なため「植えてはいけない花」として扱われ、世界の侵略的外来種 100 種に選ばれている。花言葉は「心変わり」「合意」



「キンモクセイ」

中国原産、中国名「丹桂」、雌雄異株。日本には雄株しか渡来していない。そのため果実は見られない。

呑川沿いの民地で多く見られるが公園にも採用されている。花木では桜、梅、ハナミズキに続き多い。

呑川では「目黒区まちかど公園、桜梅公園」ほかで見られる。池上第二小学校付近には並木が見られる。区の公園には「キンモクセイ」も見られます。花冠は直径5mm、4裂する。花は朝晩涼しく秋めくころ、街に秋の香りが流れていく。この香りを嗅いでキンモクセイの木があることを思い出す。花言葉は「謙虚」「気高い人」、モクセイ科



「ミズヒキソウ」

長さ 30cm ほどの花序に付く花は上部が赤く下部が白い。上から見ると赤いが下から見ると白く見えるので、これを進物を飾る紅白の水引に例えたのが名前の由来。葉は卵形で先端がとがる、表面はまばらな毛が生える。草丈 40~80cm、茎に荒い毛が生えている。花言葉「祭礼」多年草、タデ科。

(注)前回(7~8 月)レポートで「アメリカアサガオ」は「ノアサガオ」の間違いました、訂正しお詫びいたします。

*参考図書:草花さんぽ図鑑 発行者 永岡純一 発行所 株式会社永岡書店

五感で楽しむ野草図鑑 著者 高橋修 発行所 株式会社ナツメ社